

# 「僕らの旅～フェリーや電車を使って長崎へ～ そして「平和」を考える」

天草支援学校 小学部 5・6年



## 1 「戦争」って何？

本学級では、毎日「新聞タイム」を設け、1つの記事を読み込み、「印象に残ったこと」や「自分ならばどうするか」を考えています。沢山の言葉に触れること、自分の意見を持って行動することをねらった取組です。2015年は戦後70年であり、子ども達の目に「戦争」という文字が多く映りました。「戦争ってどんなものだろう」と関心が高まる子どもたち。是非、文面だけでなく、目と心で戦争の凄惨さを感じてほしいという願いから、修学旅行で長崎を訪れることにしました。



## 2 総移動距離230km! すべて公共交通機関で!



「旅行先で必要だと思う情報」を自分たちで考えて、しおりにまとめるようにしました。子どもたちは、時間をかけて話し合い、日程表や地図、観光地の魅力等のページを設け、特に観光地についてはインターネットで調べた膨大な情報を、自分たちの言葉でまとめることができました。

当日は、ハウステンボス、原爆資料館、平和記念公園、グラバー園に行きました。少人数のため、全て公共交通機関を利用した移動です。手作りのしおりと腕時計を見比べながらフェリーや電車、バスを乗り継ぎ、無事に到着。ハウステンボスでの初めてのアトラクション、グラバー園でのハートストーン探し、ホテルでのバイキング等、ドキドキ、わくわくの楽しい2日間になりました。

## 3 平和を願う気持ちを折り鶴に

平和について考える時間を、毎日15分程度設け、新聞や映画、当時の写真を見て学習しました。ある時、絵本「さだ子の千羽鶴（佐々木雅弘・作）」の読み聞かせを行いました。深く共感した子どもが「自分達も千羽鶴を持って行きたい」と懇願し、当日までの1週間、学校全体に折り鶴作りを呼びかけました。

11時2分で止まった時計、原爆の熱で解けた瓶、被爆者の方々の写真、語り部の方々の映像等、原爆資料館に並ぶ史料を見つめる表情は真剣そのものでした。平和記念公園では学校みんなの平和への思いがこもった折り鶴を捧げました。折り鶴には「世界が平和になりますように」「戦争がなくなりますように」というメッセージを添えました。



平成 年 月 日 曜日 平和新聞 日刊

平和について考える

記者が毎日考えて出した答えとは？

ぼくらのやくわり

いつも平和を考える

あがままもしない

人の気もちも考える

けんかをしな

あったか

ゆずり木

平和新聞

記者のつとめ

ぼくはせんせい

平和をつくって

ぼくはせんせい

あつたか

ゆずり木

平和新聞

取材の様子

あつたか

ゆずり木

平和新聞

戦争について

多くの人の命をうばった原子爆弾

## 4 僕らが平和のためにできること

「平和への思いを発信しよう!」と、1ヶ月間記者になり、共同作業で「平和新聞」を完成させました。自分達が平和のためにできることを考え、言葉や絵で表しました。修学旅行を通して、平和について考えた2人の思いが詰まった新聞となりました。